

# シニアフォレスター会議開催される

## ——「横浜林業宣言」を採択——

林野庁海外林業協力室

### 1. はじめに

森林・林業分野において、わが国が提唱し、かつ、主催する初めての国際会議である「シニアフォレスター会議」が7月23日から26日までの4日間、横浜市の産業貿易センターの国際会議場で開催された。

本会議には、熱帯林諸国を中心として世界各国から森林・林業の専門家及び関連分野の専門家99名、日本側専門家78名が出席し、熱帯林の保全と持続可能な森林経営の達成に必要な実践的な方策についての行動計画及びこれに取り組む決意を表明した「横浜林業宣言」の採択が行われた。

### 2. 会議の背景

熱帯林は、現在、毎年約1,700万haが減少しているといわれ、熱帯林の保全・造成は地域住民の生活環境保全、生活、産業資材の供給ばかりでなく、地球的規模での環境保全の観点からも緊急に対処すべき課題となっている。

こうした背景の下、昨年5月「熱帯林問題に関する懇談会」（大来佐武郎座長）は、その中間報告において「緑の地球経営」という行動理念を提唱するとともに、わが国の海外林業協力の今後の展開方向についての具体的提言を行った。その一環として、熱帯林の保全と持続可能な森林経営の推進を図るため、森林管理の責任を担う森林・林業技術者や森林関連分野の専門家（シニアフォレスター）による国際会議を緊急に開催することを提言した。

この提言を受け、林野庁は1,000万haの造林実績と十数年の海外林業協力の経験を踏まえ、国際熱帯木材機関（ITTO）と協力し、その実施計画を策定、ITTO理事会の承認を得るとともに、所要の予算要求を行い、その開催に向け準備を進めてきた。

---

International Forestry Cooperation Office, Forestry Agency : Conference of Senior Foresters — “Yokohama Forestry Declaration” was Adopted

### 3. 会議の目的

熱帯林諸国を中心に各国の森林管理の責任を担う森林・林業技術者や森林関連分野の専門家が一堂に会し、熱帯林の保全と持続可能な森林経営の達成に必要な実践の方策について技術的見地から討議し、国際的なコンセンサスの形成と協調活動の促進に資することを目的としている。

### 4. 「議長サマリー」

熱帯林の保全と持続可能な森林経営の促進を図るための実践の方策について「議長サマリー」に取りまとめられた。その概要は次のとおり。

我々は、

①林業は森林の保全と持続可能な森林経営の全てを扱う。

②生物資源の保全、環境保全、木材をはじめとする様々な財の生産など幅広い目的を達成する熱帯林の持続可能な経営は実行可能である。

との基本的な合意の下に、熱帯林の持続可能な森林経営の確立に不可欠であり、フォレスターが直ちに実行し得る行動計画を次のとおり、取りまとめた。

—森林・林業活動の国別行動指針を策定する。

—すべての森林を対象に永久森林、残置森林等の区分を行い、保続経営の単位を定める。

—保続経営の単位毎に持続可能な年間伐採許容量を推計し、これとの現実の伐採水準との間にかい離が生じないように留意する。

—森林を維持するため、最も適した森林施業体系を適用する。

—天然林の利用を補完・代替するため、造林等によって森林に回復すべき地域を特定する。

—森林生態系の現状を把握するため、モニタリングシステムを構築する。

—持続可能な経営のための対策及び規則等の実効性を確保するため、森林・林業スタッフの配置を改善する。

### 5. 「横浜林業宣言」の概要

1991年7月23日から26日にかけて、横浜で一堂に会した世界のシニアフォレスターと森林関連分野の専門家は、熱帯林の持続可能な経営のためのITTOガイドラインを直ちに実効あるものとしていくため、自らが何が実行可能かについて検討し、この結果、8項目について宣言している。この宣言の最後に、

「我々は、熱帯林の保全と持続可能な経営の達成に向けて、直ちに行動を起こせる立場にあり、また断固として行動を起こす決意である。」と結んでいる。

## 6. おわりに

今回の会議は、全体会議と分科会に分かれて実施されており、この詳細については次号で報告する予定である。

最後に、今回の会議の開催及び関連行事の実施に当たり関係各位に大変ご協力頂き、紙面を借りて厚くお礼申し上げます。

---